「世界津波の日」2026 国連イベント　開会の部
茂木敏充外務大臣　メッセージ
（11 月５日（木）　於：NY 国連本部）

外務大臣の茂木敏充です。

カマル・キショー防災担当特別代表を始め、このイベントの実現に向け御尽力いただいた関係者の皆様に対し、心から感謝いたします。

世界は今、気候変動や災害の激甚化・頻発化などの複合的な危機に直面しています。こうした地球規模課題への対応は、国際社会の喫緊の課題です。

2015 年に、142 か国もの国が賛同し、11 月 5 日を「世界津波の日」とする国連総会決議が採択されました。
この決議は、東日本大震災を契機として、世界各国の人々に津波の脅威と対策について理解と関心を深めてもらうべく、日本政府が主導したものです。

かけがえのない生命を守り、誰もが安心して暮らせる社会を築く。
重要性を増す防災の取組において、国際協力は欠かせません。
日本は、来年 10 月に仙台市で開催する「アジア太平洋防災閣僚級会議」を通じ、日本が培ってきた経験や技術を世界と共有することで、国際社会における防災に関する議論に貢献していきます。

そして、防災の歩みを未来へとつなぐ鍵は、次世代の若者です。
今日のイベントには、先月岩手県で開催した「世界津波の日」高校生サミットを代表し、軽部未華（かるべ みか）さん、竹内将吾（たけうち しょうご）さん、石沢苺花（いしざわ もか）さんの 3 名が参加してくれています。

東日本大震災から15年、その教訓を語り継いできた岩手の地で学んだことを世界へつなぎ、一人ひとりができるアクションを力強く発信してくれる皆さんを、非常に力強く感じています。

こうした高校生の皆さんが発信する「自ら行動する姿勢」こそが、今年の「世界津波の日」のテーマである
"Be Tsunami Ready: Resilience Starts with You" の精神そのものです。

今日のイベントが、私たちが手を取り合い、共に強靱な世界を築いていくための一助となることを心から願い、私の挨拶といたします。